

編集後記



いわゆる“高度”な分析手段が、容易に答の出せる高性能で自動化された、機器分析装置そのものを意味するようになって久しい。試料に手を触れ、これを化学処理しながら、どうにかして目的とする分析情報を手に入れようとする古典的な分析技術はもう不要な時代であろうか。答は「ノー」である。“高度な情報”を得ようとすればするだけこの種の分析技術が力を発揮する。もっと言えば、その技術を行使する過程で数多くの新現象の発見に出くわす例が多い。このような科学・技術の補完的発展則は、分析化学の分野だけの特殊事情ではないはずだ。筆者の編集委員の任期は本号で終了したが、いつか「先端基礎研究における技術の役割」を本誌にまとめてみたい。

(ZY)